

2017年度のCA研究会は、東京大学地震研究所共同利用（研究集会）の援助を受けて、「地球内部電磁気現象の学際的研究分野への展開」というテーマで、2018年1月9～10日に東京大学地震研究所で開催されました。発表総数は2日間で37件（口頭発表：22件，ポスター発表：15件），参加人数は延べ136人と盛況な研究会となりました。

Conductivity Anomaly 研究グループの研究としては、磁場・電場の時間的・空間的变化などの地球電磁気現象そのものの解明をめざして、観測方法・解析方法などの開発を進める分野や地球電磁気学的手法を用いて地球内部構造，地震現象，火山現象，宇宙科学的現象などの解明をめざす分野があります。後者の研究においては、研究対象をより正確に，より精密に理解するためには，これら各分野の先端的な研究成果を取り入れることや各分野で何が問題になっているかを理解することが必要と考えます。そこで本研究会では，通常の地球内部電磁気現象に関する諸問題の講演に加えて，地震学，地形学，火山学，および宇宙科学の4つの分野の方々に招待講演をお願いしました。また，平成29年度末で退職される鍵山恒臣先生（京都大学）と富澤一郎先生（電気通信大学）の両先生には，これまでの研究についてご講演をいただき，今後の研究の方向性等について有益なご助言を頂きました。

今回の研究会をきっかけとして，関連各分野の方々と問題点を共有でき，相互に協力しあえる研究テーマの構築や将来の共同研究の方向性を見いだせることができれば幸いです。

2018年2月

2017年度研究集会世話
大阪市立大学大学院理学研究科
山 口 覚